

漢字は言葉よりも覚えやすい

いずれ近いうちに精しい発表ができると思いますが、漢字の学習は、幼児が言葉を覚え始めるようになったら、すぐに始めるのがよいのです。言葉は、人類がこの世に現れた時から存在したでしょうが、文字の発明は、人類の歴史の上ではごく最近のことです。だから、文字は言葉よりも高度のものであり、従って、学習するのにも当然むずかしいものだと、だれもがそう思っていました。

ところが、**漢字のような表語文字**¹は、言葉よりも覚えやすいことが、実験の結果明らかになったのです。言葉が覚えられない脳障害児や重度の精薄児でも、漢字は覚えられます。

言葉は耳でとらえるものであるのに対し、文字は、目でとらえる言葉、ということが出来ます。目でとらえる文字は、とらえるまで待ってい

¹ (註) これは表音文字ではだめです。必ず表語文字でなければなりません。また、同じ漢字でも、鳥や虫よりも、鳩、鶴、蜂、蟻の方が理解しやすく、覚えやすいことも明らかにされています。「蟻、虫、中」この三つの字の中では、蟻が最も覚えやすく、中が最も覚えにくいというのが幼児の漢字学習の実際なのです。だから、正しい漢字学習は、蜂、蟻を学習させてから虫の学習に移るのです。

てくれますが、耳でとらえる言葉はとらえるのを待っていてくれません。

それどころか、発せられるや否や消えてしまいます。しかも、いくつかの音声が次々に現れては次々に消えていく、そういう音声を一つ一つ順序正しくとらえ、最後にそれらを一まとめにし、その全体が何を意味する約束であるかを理解して、その音声全体と意味とを結びつけなければなりません。

このように考えてみますと、言葉を覚えるということは実に大変な仕事であって、決して容易なことではないことがわかります。

それに比べたら、漢字の学習など実にやさしいものだと言わなければなりません。漢字は初めから一つの図形としてまとまっており、それを確認し、記憶するまで、決して消えてしまうことはありません。だから、どんなに能力の低い者でも必ず記憶することができるのです。言葉を覚えることのできない重度の精薄児でも漢字を覚えることができるのは当然のことなのです。